

宝暦・天明期の文化—教育と文芸

18 世紀、全国に様々な教育施設が設立された。中でも寺子屋の貢献は大きい。一般民衆が「読み・書き・そろばん」を学び、文字文化の享受が可能になった。また、同時期の出版業の貢献も欠かせない。出版業は教科書用の書物を刊行し、学習活動を促進させた。そして、読み手となった民衆が出版業を支えて関連した。

○学問の発展と普及

●正学と異学

18 世紀、新たな学問・思想の台頭に対し、幕府は儒学による武士の教育を奨励した。

→18 世紀末、幕府は⁽¹⁾ _____ を発して⁽²⁾ _____ を“正学”とし、
⁽³⁾ _____ に付属する林家の私塾で（2）以外の学派“異学”の講義を禁じた。
 ⇒1797 年、この私塾は切り離され、幕府直轄の学問所⁽⁴⁾ _____ となった。
 ◇異学…例えば、儒学の一派である古学（古学派）・陽明学など



図1 昌平坂学問所

●儒学の新たな一派

18 世紀後半、古学が盛んになり、また、儒学の新たな一派も現れた。

①⁽⁵⁾ _____ …朱子学・古学・陽明学など諸派の長所を調和する一派
 ②⁽⁶⁾ _____ …一部の（5）の間に興った、確実な典拠に基づいた古典解釈を目指す一派

●教育施設

<藩校>

全国の藩に、藩士や子弟の教育施設⁽⁷⁾ _____ （_____）が設立された。

⇒当初、（7）は朱子学や武術を学ばせたが、のちには蘭学・国学も取り入れた。

<郷校>

藩の援助を得て、藩士や庶民の教育施設⁽⁸⁾ _____ （_____）が設立された。

⇒岡山藩主⁽⁹⁾ _____ が建てた⁽¹⁰⁾ _____ は最古の（8）である。

<私塾>

武士・学者・町人などは、各地に私塾を開き、儒学・国学・蘭学などを講義した。

<寺子屋>

一般庶民の初等教育施設⁽¹¹⁾ _____ が、都市や村に数多く設立された。

⇒浪人（牢人）・僧侶・神職・町人・女性が、「読み・書き・そろばん」を主に教えた。



教授用の教科書には、出版された書物が用いられた。

⇒⁽¹²⁾ _____ の著作をもとにした『⁽¹³⁾ _____』を用いた女子教育が進展した。

<その他>

18 世紀初め、大坂町人の出資を得て、⁽¹⁴⁾ _____ が大坂に設立された。

⇒18 世紀末の寛政の改革の頃、学頭の中井竹山が朱子学・陽明学を町人に教え、
 『出定後語』の著者⁽¹⁵⁾ _____ や『夢の代』の著者⁽¹⁶⁾ _____ を輩出した。



図2 池田光政



図3 閑谷学校



図4 寺子屋



図5 懷徳堂幅

設立地	藩校名	設立者
秋田	めいとく 明徳館(明道館)	よしまさ 佐竹義和
米沢	(17)	(18)
水戸	弘道館	徳川斉昭
長州萩	(19)	よしもと 毛利吉元
熊本	時習館	(20)
鹿児島	造士館	しげひで 島津重豪

図6 代表的な藩校



図7 大槻玄沢



図8 吉田松陰



図9 シーボルト

設立地	私塾名	設立者
江戸	けんえん 護国塾	(21)
江戸	(22)	(23)
近江小川	藤樹書院	中江藤樹
京都	(24)	(25)
大坂	(26)	しゅうあん 中井 登 庵
大坂	せんしんどう 洗心洞	(27)
大坂	(28)	(29)
岡山	はなばたけ 花 畠 教場	ばんざん 熊沢蕃山?
長州萩	(30)	よしだ しょういん お じ 吉田 松 陰の叔父
豊後日田	かんぎえん 咸宜園	広瀬淡窓
長崎	(31)	(32)

図10 代表的な私塾

○文学と芸能

●文学

<小説>

江戸時代中期、文学は身近な政治・事件を題材にした。
⇒出版物や貸本屋の普及もあり、民衆に広く受容された。



小説では浮世草子が衰え、次の小説様式が流行した。

- ① (33) …江戸の遊里を描く小説
… (34) の『仕懸文庫』が有名
- ② (35) …絵入りで風刺の効いた大人向けの小説
… (36) の『(37)』が有名



(34) (36) や版元 葛屋重三郎は (38) で弾圧された。

◇葛屋重三郎…本屋耕書堂を開業し、洒落本などを版元として刊行



図11 山東京伝



図12 恋川春町



図13 葛屋重三郎



図14 葛重の版元印



図15 耕書堂

<俳諧>

京都の (39) が、絵画的描写の画俳一致の句を詠んだ。

◇『蕪村七部集』は (39) の弟子が主に編集

<川柳>

(40) が、俳句の形式で世相風刺する (41) を始めた。



図16 与謝蕪村



図17 柄井川柳

●芸能

<浄瑠璃・歌舞伎>

18世紀、脚本『(42)』を著した (43) や、

脚本『本朝 廿四孝』を著した近松半二が浄瑠璃界に現れた。

⇒浄瑠璃は18世紀後半に栄えた後、徐々に歌舞伎に圧倒されていき、座敷でうたわれる唄浄瑠璃へと移った。



図18 竹田出雲 (2世)



図19 近松半二